

中国と世界

(2)

- ・ 軍縮についての中国の立場
- ・ 世界外交における周恩来
- ・ アメリカの対台湾政策
(1948～1950年)
- ・ 南南協力について
- ・ 西欧諸国の外交政策を
つらぬく基本的理念

中国と世界 (2)

『北京周報』対外関係シリーズ

編集	周 国
装丁	程 颢
出版	北京周報社 中国北京百万莊路24号
発行	中国国際書店 中国北京第399号信箱

中国と世界

(2)

『北京週報』

対外関係シリーズ

目次

第二回国連軍縮特別総会における黄華中国代表团団長の発言……………	5
軍備競争の停止と軍縮に関する中国の提案……………	23
世界外交における周恩来……………	27
馬列 王凝……………	
中米共同コミュニケ（一九八二年八月十七日）……………	59
中国外交部スポークスマンの声明……………	65
新中国成立前後におけるアメリカの対台湾政策……………	71
資中筠……………	
南南協力について……………	113
徐 梅……………	
「ニューデリー会談」……………	129
南南協力に関する中国代表の発言……………	
西欧諸国の外交政策をつらぬく基本的理念……………	135
郭豊民……………	

第二回国連軍縮特別総会における

黄華中国代表団団長の発言

(一九八二年六月十一日)

第二回国連軍縮特別総会は全世界の注目を集めるなかで開催された。開催にいたる過程では、非同盟諸国と多くの中小諸国が称賛に値する活動をすすめた。その呼びかけと長年にわたるためぬ努力により、軍縮問題はようやくにして超大国の専売ではなくなり、世界のすべての国がともに関心をもち、直接かわる問題となったのである。

第一回国連軍縮特別総会以降、軍縮がさらに緊急の課題となったことは疑いのない事実である。現在、平和を愛する全世界の人民は、軍縮問題に対する各国政府の立場を注視している。この総会で、軍備競争の制止、核戦争の防止といういくつかの緊急の課題について確実に効果のあがる措置がとれるかどうかを見守っている。この点からいえば、本総会は単なる軍縮問題

の討議の場というにとどまらず、軍縮に対する世界各国政府の誠意がはかられる場にもなるであらう。

中国代表团は中華人民共和国政府の指示にもとづき、軍縮を求める偽りのない願いを抱いて総会に出席した。われわれは各国代表とともに、世界の軍縮にかかわる当面の重大な問題を真剣に検討したいと願っている。また総会が軍縮問題の合理的解決の促進と世界平和の維持に寄与できることを望んでいる。

本総会の中心課題の一つは、四年来の国際情勢と軍縮の進展状況を審議することである。偏見を抱かず、事実にもとづいて判断するならば、四年来の世界情勢が一貫して緊張をはらみ続けてきたことを否定することはだれにもできないであらう。緊張継続の原因はどこにあるかといえ、それは主として、覇権主義者の対外拡張と侵略にあり、二つの超大国の軍備競争の激化と激しい争いにある。一方の超大国は勢力圏の拡大に努めてじりじりと攻勢に出、他方の超大国もこれに負けじと実力の再強化と覇者としての態勢の整備に努めている。どちらも目的と

しているのは世界の覇権を手中にすることである。そのために、全世界で両超大国の争いが展開され、多くの中小諸国の独立と主権、国際平和と安全が脅かされ、世界各地に新たな発火点が生じ、ただでさえ緊張をはらむ国際情勢がさらに緊張の度を加えている。七〇年代は、二つの超大国の全世界における争いと世界人民の反覇権闘争が交錯した十年であった。覇権主義者が姿を見せたところでは決まって反覇権闘争が起きた。八〇年代にはいつてからは、国際情勢はさらに激しい矛盾と衝突のタネをはらんでいる。

軍縮をめざす各国人民の闘争はこの四年、止まることがなかった。だが、軍縮問題はなんら実質的な進展をみせなかった。第一回国連軍縮特別総会の最終文書の規定した軍縮目標は、依然として文書のままとどまっている。その根本的原因是、二つの超大国に軍縮に対する誠意がまったくなく、きそって軍備拡張に拍車をかけていることにある。両超大国は戦略兵器と戦域核の面で質を向上させ、更新し、優位を確立して相手側を圧倒するために新たな軍備競争を展開している。同時に、通常軍備を拡充し、戦略要地をおさえ、戦争準備を強化している。二

つの超大国はそれぞれ相手側の軍備拡張を自国の軍備拡張の理由とし、それを互いに非難しい、暴露しあっている。二つの超大国の日ましに激化する軍備拡張・戦争準備は世界の平和と安全を脅かしており、世界人民が激しく反対するのは当然である。近年、ヨーロッパ、日本、アメリカ、その他の国ぐにの人民が、二つの超大国の核軍備競争に反対し、核戦争の防止を求めて大衆運動をすすめている。われわれは、平和を守り、戦争を防ぐとするその願いを十分に理解し、共感を覚えるものである。

軍備競争の激化と戦争の脅威の増大につれて、第三世界と広範な中小諸国がより強く軍縮の推進を要求し、本総会に成果を期待するのは、まったく正当なことである。なぜなら、二つの超大国の争いと覇権主義者の侵略・対外拡張によって、真つ先に被害をこうむるのは第三世界と中小諸国だからである。第三世界と中小諸国は自国の安全のため、貴重な資源と限りある資金を防衛力の強化に投入せざるを得ず、これが経済的負担をますます重くしている。第三世界と中小諸国は、軍縮の実現を声を大にして叫びつづけ、多くの積極的な提案、合理的な主張をお

こなってきた。その一部はすでに本総会に提出された「総合軍縮案」にも盛りこまれている。本総会はそれらの提案と主張を真剣に考慮、検討すべきである。

二つの超大国は新たな軍備競争を展開する一方、核威嚇に反対する世界世論の圧力を受けて、たえず軍縮を望むポーズをとり、さまざまな提案、計画を出している。こうした現象を、いったいどう見るべきであろうか。軍備競争で先に立ち、優位を占めた側が、現状の凍結を求めて優勢を確保しようとし、不利な立場に立たされた側が現状の打破をめざしてスパートをかけ、力関係を自分に有利に変えようとするものであることは、歴史を見れば明らかである。現在、一方の超大国はまず凍結を強調し、他の一方はまず削減を強調している。表面的には、両国とも軍備のバランスを維持するとはいっているが、実際はどちらも新たな軍備競争のなかで世界制覇の力を強化すべく優位に立とうとしているのである。

この面では、一方の超大国の姿勢にとくに注目すべきである。この提案、あの計画と毎年のように手を変え品を変えているが、實際行動はなに一つとっていないのがこの超大国の特徴で

ある。

この超大国に対しては、誰しも次のような疑問を呈せざるを得ないであろう。

一、前回の国連軍縮特別総会で、「戦争をひき起こしたことはこれまでもないし、これからも永遠に起こさない」と誓いながら、一年後には十万の軍隊を動員してアフガニスタンを侵略、占領したのはどこの国だったか。この軍隊は戦争をしに行ったのではなく、観光旅行に行ったとでもいうのだろうか。

一、この超大国は核兵器使用禁止について大いに語りながら、なぜいまだに非核保有国に対し、無条件で「核兵器を使用しない」との保証を宣言しようとしなのか。

一、もしもこの国が真にアジアで「信頼できる措置」をとる気があるならば、なぜ即時無条件にアフガニスタンから撤兵し、同時にカンボジア侵略への支持をやめようとしなのか。この二つを実行すれば信頼は自ずとちかるとれるではないか。

一、「デタント」をあれほど美化していながら、その「デタントの十年間」にこの超大国は

核兵器と通常軍備をなぜ大幅に増やしたのか。かれらは軍備を拡張することによって「デタント」をおこなおうとしているのか、それとも「デタント」は軍備拡張をおおいかくすべールにすぎないのか。

この超大国の言葉と行動を少しでも対比してみれば、そこからしかるべき結論を引き出すのはそれほどむずかしいことではないだろう。

この超大国の軍縮ポーズはつねづね「平和攻勢」と称されている。中国には「世を欺きてその奸を售（う）らんとする者は、つねに人の見る所において善をなし、人の見ざる所において悪をなす」という言葉がある。かれらがあれほどまで「平和攻勢」に熱中するのは、軍縮に対する誠意を示すのではなく、ましてや侵略・拡張政策の転換や放棄を意味するものではない。それは引き続き核軍拡、核恐喝、核戦争準備の覇権主義政策をとりやすくするために、真相をおおいかくして、世界人民を愚弄し、軍縮の目標から目をそらさせることをねらったものではない。

中国政府と中国人民は一貫して真の軍縮の実施を主張するとともに、軍縮の進展をめざして積極的に努力してきた。六〇年代いらい、わが国政府は軍縮と国際安全保障強化の主張と提案を繰り返してきた。われわれは従来から軍備競争に反対し、国際関係における武力の行使、あるいは武力による威嚇に反対し、軍事的優位を利用した侵略、拡張に対してはいかなる国のものであれ反対してきた。われわれはソ米両国が核交渉を行なうことには賛成である。しかし、従来と全く同じ道を歩み、両国の核軍備を削減しえないばかりでなく、逆に改良と拡充に大きな余地を残すような交渉ではなく、両国が厳粛な、責任ある態度で交渉に臨み核軍備競争の制限と核戦争の脅威の防止に真に役立つ合意に達するよう願うものである。

わが国代表は近年、わが国政府の軍縮に関する諸問題についての基本的原則をさまざまな軍縮会議で繰り返して言明してきたが、この機会にあらためてわが国政府の軍縮に関する基本的原則を表明したい。

一、軍縮の実現と国際的な安全とは不可分のものである。軍縮の実現は世界の平和と安全を

守る努力と結びつけなければならない。軍縮に役立つ空気と条件をつくり、軍縮を実際に進展させるためには、国連憲章と国際関係の準則を順守し、いかなる国がいかなる地区で、いかなる形態の覇権を求めることにとも反対し、とくに武力の行使あるいは武力行使による威嚇で他国の主権と領土保全を侵犯することに反対しなければならない。

二、二つの超大国が率先して軍縮をおこなうべきである。超大国の核軍備と通常軍備が他のすべての国を大きく上回り、両超大国間の争いと軍備競争が世界の平和と各国の安全を脅かしている現状を考えるなら、超大国が軍縮に対して主要な責任を負い、率先して軍縮をおこなわなければならない。その他の核保有国と軍事面で重要な地位にある国も両超大国が大幅に軍備を削減した後に、合理的な比率と手続きにしたがって、ともに軍備を縮小すべきである。

三、核軍縮と通常軍縮は結びつけておこなうべきである。核戦争が人類に重大な脅威をあたえている以上、核軍縮の目標実現のため確実な措置をとることはきわめて重要である。しかし、通常兵器による他国への侵略と脅威も軽視してはならない。したがって、現実に戦争の危

險を減らすのに役立てるには核軍縮と通常軍縮を結びつける以外にない。また、核軍縮と通常軍縮をおこなうと同時に、その他の大規模破壊兵器の使用も禁止すべきである。

四、すべての中小諸国は侵略を防ぎ、独立を守るために不可欠の国防力の保持に必要な措置をとる権利を持つ。軍縮の各段階における措置と手順は、いかなる国の独立、主権、安全をも損なわず、脅かさぬものでなければならない。

五、軍縮協定には厳格かつ有効な国際査察措置を規定すべきである。必要な信頼を確立し、すべての締結国に確実に遵守させるために、関連協定にはすべて確実な査察措置が含まれるべきである。協定に違反する行為に対しては必要な制裁措置をとらなければならない。

六、各国は軍縮問題の解決に平等に参加すべきである。軍縮問題が各国の安全と利益にかかわるものである以上、世界のすべての国ぐにが大小を問わず、核の保有あるいは非保有を問わず、また軍備の強弱を問わず、平等な立場で軍縮問題の審議、交渉に参加し、関連取り決めの実行を監督する権利を持つ。

軍備競争の制止と核戦争の防止を求める世界各国人民の強い願いを考慮し、軍縮問題に対する中国政府の一貫した立場と上述の基本的原則にもとづいて、軍備競争の即時停止と軍縮の実施に関する主要措置をここで総会に提案したい。

一、すべての核保有国が核不使用について合意するまでは、核保有国はそれぞれ、非核保有国と非核地帯に対して核兵器を無条件で使用しないことを保証するとともに、いかなる時、いかなる状況のもとでも、互いに核兵器を先に使用しないことを保証する。

一、ソ米両国は、核兵器の実験、改良、製造を停止するとともに、保有するさまざまな種類の核兵器と運搬手段を五〇％削減する。

一、そのちに、すべての核保有国が核兵器の実験、改良、製造を停止するとともに、合意した比率と手順にもとづいて、それぞれの核兵器保有量を削減する。

一、核軍縮をおこなうと同時に、それと結びつけて通常軍縮をおこなう。その第一歩として、各国は通常軍備による他国への武力干渉、侵略、軍事占領をおこなわない義務を負う。